

撮影 中村彰宏

ご挨拶

相変わらず新型コロナウイルスにひっかかり回された感でいっぱいの今年もいよいよ12月、皆様いかがお過ごしでしょうか。

皆様の知恵と力をお貸しただけたおかげで、今年もなんとかスタッフ一同、さまざまな活動を続けてくることが出来ました。心より厚く御礼申し上げます。

隔月に行われて来たチャリティライブも、さまざまな演奏者のご協力を得ながら、この12月で第18回を迎えます。前回の10月6日の「新沢としひこさんと一緒に『にじ』を歌

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

おう」のライブにリモートで参加してくれた北海道滝川市丸加高原の「そらぶちキッズキャンプ」（難病の子が自然の中で過ごせるキャンプ場）からのお便りが届きました。

「元キャンパー（利用者）で、臨床心理士になり、今はここで働いている奈良出身のスタッフがいます。画面参加していた彼女が東大寺の療育病院の画面を見て、（小さい頃お世話になった保育士さんやー）。お互いに気づき、裏でLINEで連絡を取り合っていました。お世話になっていたのは20年以上も前はなしだとか。嬉しい再会だったようです。」

あわただしくなります。御自愛ください。

☆財団の主なイベントご紹介

■医療的ケア児・者と家族の主張コンクール

グランプリは山田萌々華さん

当財団では医療的ケアを必要とする子どもと家族の現状について知っていただくための活動を行っていますが、その一環として2017年より「医療的ケア児・者と家族の主張コンクール」を開催しています。

第4回となる今年は、昨年同様、感染防止のためリモートで開催いたしました。医療的ケア児支援法施行など、医療的ケア児を取り巻く環境は少しずつ良い方向に動いているように思えます。しかしまだまだ改善しなければならない課題はたくさんあります。当事者からの“主張”を発信することで、現状を知り、改善していくためのきっかけとなることを願っています。

最初に当財団代表理事の細谷亮太より開会の挨拶、審査員のご紹介、続いて6名の発表者の方よりリモート参加の形で、日頃より感じていること、得たこと、また社会や制度の不合理、それに対する提案などの“主張”をしていただきました。どの“主張”も力強く、説得力のあるものでした。

参加者と“主張”タイトルは以下の通りです。

1. 矢崎 寛子様「友香と未来に進行中」
2. 中山 梓実様「重度心身障がい児の未就学児療育・教育環境について選択の余地を」
3. 大澤 遥様「目に見えないグレーゾーンの障がいを持つ方の就職活動」
4. 久保ちひろ様「半径2メートルの世界を飛びこえて～共に学び、共に育つ～」
5. 山田萌々華様「学校に行けるようになりました」
6. 清藤 珠帆様「対話からうまれる双方向のハッピー」

発表の後、審査員3名の協議により、グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞が下記の方に決定いたしました。

- ★グランプリ 山田萌々華様
- ★準グランプリ 久保ちひろ様
- ★審査員特別賞 大澤遥様



発表を聴く審査員の皆様



発表者をバックに審査員の皆さま
左より細谷亮太氏（キッズファム財団代表理事）、秋山正子氏（認定NPO法人マギーズ東京センター長）、丹野真紀子氏（大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科教授）

上記以外の方の発表も甲乙つけがたい内容で皆さんに入賞の賞状を贈呈いたしました。ぜひ財団のウェブサイト（下のQRコード）で発表の映像をご覧いただき、共に考える機会にしていだけますと幸いです。

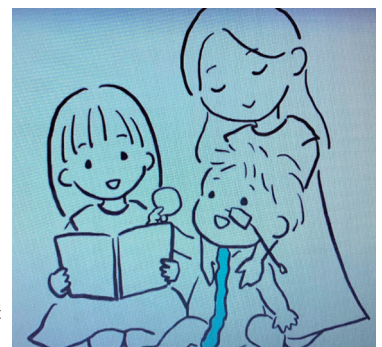
最後になりますが、素晴らしい“主張”をしてくださった6名の皆様、的確な審査と今後につながるあたたかいコメントをくださった審査員の皆様に心より感謝申し上げます。

収録日：2021年9月18日（土）
収録場所：シミズオクト高田馬場スタジオ
（新宿区下落合1-4-1）
公開日：2021年10月7日（木）



グランプリ受賞の
山田 萌々華さんとトロフィ

準グランプリ受賞の
久保ちひろさんの発表
（イラスト）



■写真展「いのち」輝く」世田谷美術館

世田谷美術館区民ギャラリーで10月5日～10日の6日間写真展を開催しました。当初は5月の予定でしたが、緊急事態宣言のため延期となりました。しかし、穏やかな秋晴れの10月に行うことができました。多くの方にご来場いただきましてところよりお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止対策のもと、夏のファミリーフォトプロジェクトで撮影した5組のご家族の写真パネルもご覧いただくことができました。

同時に目黒星美学園図書館で4月に行われた生徒による写真展に寄せられた、桜の花びらに書かれた瑞々しい感性のメッセージで彩られたボード4枚も共に展示しました。多くの方が時間をかけ全てのメッセージを読まれる姿をお見受けしました。読まれた方からはこころあたたまる言葉、お気持ちをたくさん頂戴いたしました。



写真パネルをご覧いただいた方からは、写真のご家族の笑顔に勇気づけられた方、涙を浮かべ思いを伝えてくださる方、ご自身に思いを重ねる方、医療的ケアについてのご質問もありました。皆様それぞれの思いがあり全てをお伝えすることができず残念に思います。写真パネルに写っているご家族の来場もあり久しぶりにお会いすることができました。

昨年はニュースの報道があり多くの方に来場いただきました。今回の写真展では少し人数が減りましたが余裕をもってお一人おひとりにゆっくり、丁寧に対応することができたのではないかと感じています。そしてご理解を深めていただけましたらとても嬉しいです。

次回は来年1月24日～2月18日 東京都世田谷区砧1丁目 NHK 放送技術研究所 1階ギャラリーで写真展開催予定です。今後もしよろしくお願いたします。

■ファミリーフォト・プロジェクト 撮影イベント

「七五三の写真がないんです。」そんなお母様の一言から始まったファミリーフォト・プロジェクトは、“もみじの家”滞在中に家族写真を撮影し、アルバムに入れた写真とデータをプレゼントする取り組みです。喜んでいただいていたのですが、コロナウイルス感染症のため昨年4月より休止しています。

ご家族より、「とても残念」「ぜひ撮ってほしい」というご意見をいただいたため、“撮影イベント”として日時と場所を設定し、事前予約制で2回実施しました。

1回目は8月7日(土)、NPO法人 laule'a 遊びりパークリノアたまプラで、2回目は11月7日(日)、世田谷区医療的ケア



NPO法人 laule'a 遊びりパークリノアたまプラ (カメラマン: 安田 一貴)



世田谷区医療的ケア児支援センター Hi・na・ta (カメラマン: 五井 寧)

児支援センター Hi・na・ta で行いました。感染防止対策を取りながら、家族同士が接することのないように実施し、14組のご家族に参加いただきました。

会場としてお借りした2施設はそれぞれとても素敵なお所で、ご参加いただいた皆様にはリラックスして楽しみながら撮影に臨んでいただき、笑顔いっぱいの素敵な写真が撮れました。そして、「とても楽しかった。」「いい思い出ができた。」「家族全員で撮れてうれしい。」などの感想をいただきました。2回目については申し込み開始から5分で定員に達してしまう状況で、待ち望んでくださったことがわかりました。ぜひまた計画したいと思います。

ご参加いただいたご家族の皆様、快く会場をご提供くださった2施設の皆様、ありがとうございます。

■チャリティライブ

偶数月に、YouTube で無料生配信しています。

Zoom でご参加いただいた方には、アーティストの皆さんと一緒に音楽等を楽しんでいただいています。

■第 15 回 -2021 年 6 月 27 日

フラウタ。(村井学さん・萩野雄輔さん・かまだあきさん)による演奏と、長竹直子さんによる絵本の読み聞かせや歌遊びのコラボでした。フラウタ. は、オリジナル曲に加えて NiziU の「Make you happy」や「パプリカ」等の演奏を、長竹さんは「こいぬのピンゴ」の歌遊び等をしてくださいました。Zoom でご参加いただいたお子さんたちが曲に合わせてダンスする様子はたいへん微笑ましく、とても楽しいライブとなりました。



■第 16 回 -2021 年 8 月 9 日

認定 NPO 法人朴の会「音楽とどけ隊」(大塚雅仁さん・笈千佳子さん・田尻かをりさん・袴田容さん)による、うた・ピアノ・バイオリン・チェロの演奏で、「おばけなんてないさ」等のお子さん向けの曲を披露してくださいました。「音楽とどけ隊」は小児がんをはじめとした難病の子どもたちのために病院内で直接「生」の音楽や演奏をお届けする活動をなさっていて、聖路加国際病院や都立小児総合医療センターを中心に計 150 回以上のとどけ隊を実施なさっているそうです。イベント終了後「つっぴんとビウオ」という歌が好きなお子さんとお母様から素敵な絵(右下)とお手紙をい



ただきました。

■第 17 回 -2021 年 10 月 6 日

シンガーソングライターの新沢としひこさんによる演奏でした。「世界中の子どもたちが」や「にじ」を Zoom 参加していただいた皆さんと一緒に歌ってくださり、「ともだちになるために」では手話を教えてくださいました。また、絵本「はらぺこあおむし」の曲や「はじめの一步」はピアノの演奏と共に、「パレード」「ハッピーチルドレン」はギターの演奏と共に歌っていただきました。いずれも大人にも子どもにも馴染みの曲ばかりで大いに盛り上がりました。今回は過去最高の 25 組の Zoom 参加がありました。

Zoom 参加者からのメッセージをご紹介します(一部抜粋)

●新沢さんはもちろん、日本中の方とつながることができて、ワクワクした時間を過ごせました。入院中のお子さんやご自宅にいるお子さんと音楽を通じて同じ時間を過ごすことができ、気持ちがいっぱいになりました。新沢さんの歌声や楽器の音色は本当に素敵で、涙が出てしまいました。

●始まる前から、子どもたちは画面に映る自分たちの姿に大喜び。踊って見せる子もいました。新沢さんの知っている曲が流れると、聴き入って一緒に歌いました。

●個人的には、にじも、その他の曲も、しゃべりも楽しかったですが、はらぺこあおむしが、サイコーでした！画面上のみんな楽しそうでした。新沢さんはやっぱりすごい！



※ YouTube で過去のライブ動画をご覧いただけます。「キッズファミ財団」で検索してください。



お子さんから送られた絵



ご家族からのお便り 遊びをせむとや生まれけむ

中野 弘子

我が家では短期入所に二つの目的があります。一つは家族がゆとりの時間を持つこと。もう一つはいざという時の為の防災のような役割です。介護者が急病や事故等の緊急時に馴染みの無い施設を利用するのは親子共に不安ですから。でも息子はショートステイが大嫌いです。まるで入院のような数日は苦痛でしょう。嫌そうな姿に毎回罪悪感でいっぱいでした。

そんな時に「もみじの家は楽しい活動があって良いわよ」と聞き利用してみました。施設内は明るく、広いプレイスペースがあります。毎日活動の計画もあり、ここなら息子も楽しく過ごせるだろうと嬉しくなりました。初回にはピアノコンサートを開催していました。「お母様も一緒にどうぞ」と誘われ、子供たちの後ろで楽しませて頂きました。もみじの家は日中活動の大切さを認めて取り入れた先駆けですね。

「梁塵秘抄」の中に私の好きなうたがあります。

遊びをせむとや生まれけむ
戯れせむとや生まれけむ

遊ぶ子供の声聞けば

我が身さへこそゆるがるれ

どんな大人でも心の中には心弾むものを求める子供が住んでいると思います。ましてや子供たちにとってハッピーは栄養です。

令和三年度 短期入所中の日中活動支援加算が新設されました。これからは多くの施設で子供たちが楽しく過ごせるように変わっていくと思うと楽しみです。



医療的ケア相談支援センター「Hi・na・ta」がオープンしました

管理者兼事業マネージャー 等々力 寿純

令和3年8月、世田谷区医療的ケア相談支援センター(Hi・na・ta)が、大蔵二丁目複合型子ども支援センター3階に開所しました。

「Hi・na・ta」開所にあたっては、医療的ケアが必要なお子さんとそのご家族に寄り添い、笑顔を支えたい。それには、医療的ケアについて、何でも相談でき、困りごとや日々の想いを気軽に話せる場。忙しい日々を送る保護者が、ひとときゆっくり、ほっとできるようなあたたかく包み込むような場所を作りたいとの思いから、数年前より区の担当者の方々と協議、準備を重ね、開所に至りました。

そのため、相談支援センターと謳ってはいますが、堅苦しくない、皆さんが気軽にアクセスできる場でありたいと考えております。

そのようなコンセプトを前提としながら、医療的ケア児の最初の相談窓口の役割として、日々の生活の中で行き詰ったり、不安に思うことがあった際など、様々な相談に乗っていきます。また、退院してご自宅暮らしのための準備をお手伝いしたり、必要なサービスを調整し、在宅生活プランを作成し



ます。さらに、緊急時・災害時を想定し、事前に準備しておくことや対応していくことなどを一緒に確認し、関係機関とともに個別支援計画作成のお手伝いもします。

その他、医療的ケア児およびその家族を支える関係機関に対するサポートも行いながら、関係機関が一体となって支援していけるようにしていきます。

今後、このセンターが上手く機能し、皆さんに必要なとされ、愛されるようにスタッフ一同、力を合わせて頑張りたいと思っておりますが、そのようになっていくためには、ご本人・ご家族の皆様はもとより、日頃から医療的ケア児の方々を支えてくださっている支援者の方々のご協力が必要だと思っております。

みんなで素敵な「Hi・na・ta」を作りたいと思っておりますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。





英国だより(7)

喜谷 喜夫



秋も深まり今年も残り僅かとなって参りました、未だコロナ禍の続く中皆様ご壮健にお過ごしのことと存じます。

コロナ感染症の制限が緩やかな英国は、再び感染者が増えて来て心配して居ります。ロンドンの朝晩の通勤時の混雑は以前と同様に混んできたようですが、殆どの人はマスク(義務ではない)をしていないそうです。老齡の小生は怖いので、未だに自宅に閉じこもって居ります。現在は英国南西部の大西洋岸のコーンウォール(Cornwall)に来て英国の晩秋を味わって居ります。

前号「キッズファミ通信 No.9」英国だより(6)ではコロナ禍の事は再度触れない事を期待して居りましたが、不幸にも現実はそうは行きませんでした。英国では本年7月に制



コーンウォールにて

限を大幅に解除いたしており、外国旅行も条件付きで出来る様になり、経済も活気づきつつありました。コロナ対策としての英国のワクチン接種率は日本と同等に70%強を保持しています。ところがコロナの異端株の流行の為もありワクチン未接種の若年層の感染者が急増し毎日5万人にもなって参り問題視されております。

然しながらジョンソン首相は強気で、ワクチン接種率も高いため、死亡者数や、重症化することも少なくこのまま推移するのを見守る様です。

英国の経済は政府のコロナ対策緩和以降、徐々に回復しつつありますが、最近の世界的な原油価格の上昇は英国では別の問題が起っています。英国では日本同様にガソリン価格の上昇が起っていますがそれに上乗せしてガソリンスタンドで販売するガソリン不足が問題になっています。実はこれは英国のEU離脱による影響と、政府の移民政策の盲点でした。ガソリン供給業者が雇っていたトラックの運転手不足の為なのです。EU体制下でヨーロッパ、特に東欧から出稼ぎに来ていた運転手さん達が、BREXIT(英国のEU離脱)により英国政府の許可なしでは自由に働く事が出来なくなったために英国を去ってしまったのです。しかもビザを取得してまでして英国にくる価値も以前ほど高くなかった為なのでしょう。この事情は現在未だ解決策が見いだせず、これから先が心配されています。

「あの時、心に刻んだ大切なことば」

平井元喜 (ピアニスト・作曲家)

故・喜谷昌代さんには、英国赤十字社のチャリティーコンサートを通じてお目にかかり、晩年の15、6年ほど親しくさせていただき幸運に恵まれました。近隣の村にお住まいでしたので、ご夫妻宅にも何度かおじゃまし、また、喜谷さんは尊敬する大学の大先輩でもありましたから、生き方、考え方、多くの大切なことを教わり、その都度、深く感銘を受け、励ましていただきました。

最後にお目にかかったのはお亡くなりになる前年で、イギリスの田園風景が秋色に染まりだす頃でした。凜とした優雅な佇まいと心の奥底から湧きでる気品はいつも通りでしたが、歩行器姿で出迎えていただいたのは初めてでした。パーキンソン病との闘いについて語られるとき、「ほら、こんな身体でしょう。日本へはもう行けるかどうか・・・」

きっと、日本で喜谷さんのことを待ちわびる重い病気をもつ子どもたちとご家族のことが頭から離れなかったのだと思います。分け隔てのない“無私のお愛”で皆を優しくつつみこむ“信念と行動の人”でしたから、さぞ無念だったことでしょう。

アフタヌーンティーの終わりに、僕は自作の『Grace & Hope ~祈り、そして希望~』を喜谷さんの愛器スタインウェイ製のピアノで演奏しました。

「元喜さん、ありがとう。辛い時、苦しい時こそ音楽よね。だから貴方にはもっと頑張っていたきたいの」

魂をゆさぶられる言葉でした。その後、僕自身コロナ感染を経験し、心臓を患いながら少しずつ演奏活動を再開しつつある現在、あの時いただいた言葉の重みは増すばかりです。音楽家としての使命、音楽をできる喜びを強く感じますし、何より、生きる勇気が湧いてくるからです。

きっと多くの方がそうであるように、喜谷さんには今でも天国から励ましていただいている気がしていて、それこそ感謝しかないのです。(ロンドン郊外サリー州にて)



プラハ公演にて

History of KIDANI 〈9〉 日本にも子どもホスピスを

8回にわたって当財団創設者・喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介してまいりましたが、学生時代の孤児院訪問、世界各国の赤十字での奉仕活動、MOMIJI プロジェクトを経て、「日本にヘレン・ダグラス・ハウスのような子どもホスピス開設を」という想いが、喜谷の中に溢れてきました。

ホスピスというと、日本では終末医療に特化した施設と捉えられがちですが、英国では難病や障がいを持つ子どもや家族が、生きている間に焦点を当て、その方らしい人生を1日でも長く楽しく送るための“家”なのです。

喜谷は、「子どもたちが、1週間か10日間、自分の家を離れ同じ年頃の仲間がいるこの“家”にやって来ます。ついてくれるケアラーと一対一で散歩や買い物・映画鑑賞など自分の好きなことをし、クオリティ・オブ・ライフを楽しみます。一方、親御さん方は家事その他の雑用から解放され、お子さんと一緒にこの“家”に泊まりゆっくりすることも可能ですし、また自宅に帰り自由な時間を好きなように使うこともできます」と語っています。

視察した日本の医師は「つい病気の種類、課題、担当者、

治療法などを考える癖があるが、喜谷さんから『“友人であること”自体が、皆を深く支援していること』だと教わった」と振り返ります。



たのです。次号では、もみじの家開設についてお伝えしたいと思います。



ヘレン・ダグラス・ハウス

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2021.4.1～2021.9.30)

敬称略

秋前 秀樹 / 秋前 里依菜 / 東 桂子 / 畔上 英子 / 麻生 和子 / 荒田 尚子 / 安西 恵美子 / 安藤 愛子 / 安藤 美鈴 / 飯泉 希世子 / 池上 典子 / 池末 有貴生 / 池永 豊子 / 石井 恒樹 / 石井 由美子 / 石川 わかな / 石田 篤子 / 石橋 広隆 / 石原 晶世 / 石山 正子 / 五十子 敬子 / 磯野 悦子 / 市橋 良子 / 伊藤 啓子 / 稲井 真貴子 / 犬塚 陽子 / 伊野 公基 / 岩佐 敏子 / 岩垂 明子 / 岩間 有喜子 / 植田 栄子 / 上野 博・悦子 / 宇川 俊和 / 宇都宮 紗智子 / 内海 旬子 / 梅木 孝治 / 大川 周二 / 小笠原 和子 / 岡田 那美枝 / 岡部 和子 / 奥芝 彰子 / 奥野 英子 / 小野 篤子 / 加我 牧子 / 勝川 恵子 / 桂川 正克 / 加藤 康能 / 金子 立 / 金田 永子 / 蒲谷 ひろみ / 鎌田 千津子 / 亀山 厚也 / 亀山 聡子 / 川勝 美樹 / 岸井 淳子 / 岸本 晃子 / 喜谷 喜夫 / 鬼頭 とし子 / 絹山 豊子 / 紀 由紀子 / 工藤 悦子 / 工藤 加寿子 / 熊谷 一夫・澄子 / 栗原 義和 / 栗原 幹雄 / 栗原 喜久子 / 黒川 晴美 / 五嶋 くみ子 / 児玉 桂子 / 狐塚 七重 / 後藤 祥子 / 小林 京子 / 小林 淳一・智子 / 小林 康徳 / 小峰 万木子 / 小宮山 雅子 / 小山 安澄 / 近藤 陽一 / 斉藤 葉子 / 坂本 道代 / 佐々木 葉子 / 笹嶋 真理子 / 佐藤 志保子 / 佐藤 千鶴代 / 島谷 美成 / 清水 めぐみ / 新藤 由喜子 / 須崎 ゆかり / 鈴木 尚 / 鈴木 牧子 / 鈴木 祐子 / 高地 勝 / 高橋 昭彦 / 高橋 貞二郎 / 高橋 里江 / 田代 洋子 / 立花 基子 / 玉井 祥子 / 児野 美晴 / 月岡 威 / 土田 和子 / 寺倉 紀世子 / 寺田 晴子 / 土居 和子 / 道林 友子 / 戸辺 創 / 中尾 あぐり / 長瀬 淑子 / 中田 俊行 / 中野 喜久子 / 中野 由美子 / 西谷 久美子 / 沼田 真由美 / 橋本 文子 / 原田 純

子 / 原田 淑子 / 樋口 浩康 / 久間 久恵 / 平井 元喜 / 平田 恭信 / 平馬 慶子 / ファリーダ ラーマン / 福井 峰子 / 藤井 克徳 / 藤井 みすず / 藤岡 康 / 藤田 学 / 藤沼 哲朗 / 藤麻 香織 / 藤本 篤子 / 古澤 育恵 / 星 由紀子 / 細谷 亮太 / 堀江 ひろ子 / 前田 和恵 / 増田 とも子 / 増田 美鶴 / 班目 晶子 / 松尾 三枝子 / 松坂 ヒロシ / 松原 隆雄 / 三浦 正充 / 三浦 文子 / 宮武 倭子 / 村井 やよい / 森 優子 / 森田 葉子 / 守家 李衣 / 森山 邦代 / 矢花 佐夜子 / 山内 敏樹 / 山口 栄一 / 山田 史郎 / 山羽 啓子 / 山本 初子 / 湯川 れい子 / 吉岡 月子 / 吉田 康子 / 吉永 映子 / 与田 仁志 / 渡辺 泰子 / 匿名 17名 / イニシャル 7名 / KF/KO/MT/SS/TK/YC/YM /

お宝エイド 18名 / 岩藤 潔子 / 沖山 邦子 / 奥松 英幸 / 加我 牧子 / 川上 佳澄 / 小林 百代 / 清水 佳代子 / 守隨 邦子 / 千代 優美子 / 中野 喜久子 / 藤岡 康 / 松井 智子 / 松村 幸代 / マリン / 義岡 孝子 / 吉田 幸子 / 匿名 2名

ご寄付いただいた企業・団体

株式会社正和不動産 / 株式会社富士医科精器 / 株式会社八神製作所 / コーユーレンティア(株) / 宗教法人 成勝寺 / 首都開発株式会社 / 東京アーバンコンサルティング株式会社 / 日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社 / 日本製薬団体連合会 59社 (詳細はウェブサイトをご覧ください。)

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を
持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか
講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手
数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にて
ご連絡ください。

- ◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

① 法人会員	1口	100,000円
② パートナー会員	1口	10,000円
③ サポーター会員	1口	3,000円

※ 1口からお受けいたします。

- ◆ ご寄付
金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。
ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人
重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

- 郵便振替
00140-0-420461
- 三菱 UFJ 銀行 成城支店
普通 0233800
- クレジット決済 (QRコード) →



- ★ 三菱 UFJ 銀行に初めてご送金いただいた方は、
メールまたは電話でご氏名とご住所をご連絡願います。

—お知らせ—

- ★書籍「ひとすじの光—喜谷昌代の生涯」を特別価格で
販売中です。

下記の財団ウェブサイトから購入いた
だけます。もしくは、郵便局の払込票を
お送りいたしますので、下記のメールア
ドレスまたは電話番号にご連絡ください。
(平日 10時～17時)



おかげさまで… みなさまに愛される 街角の募金箱

砧公園の目の前、世田谷区立大蔵第二運動場
の中の「レストランクーポール大蔵店」です。

赤坂で働くサラリーマンに約50年親しまれた
オムライスやエビフライなどの老舗洋食レスト
ランの味を、皆様に楽しんでいただけるように
日々進化をさせてご提供しています。

キッズファム財団様の募金箱は、当店にお越
しいただいた方からお話をいただき、3年ほど
前から設置しています。公園に近いことから休
日には小さなお子様を連れただお客様がいらっ
しゃることも多く、理念に共感されてご寄付を
いただく機会も増えております。

(レストランクーポール)



大蔵店の加賀美店長

編集後記

キッズファム通信 No.10 をお届けいたしま
す。長かったコロナ禍もようやく出口が見えて
きた感がありますが、まだまだもう少しウィズコ
ロナの生活が続きそうです。今号においても、い
ろいろな活動報告ができたこと、とても嬉しく
思います。これもひとえに皆様のご理解・ご協
力の賜物と感謝しています。ファミリーフォト
も制限のある中で、新しい場所での撮影会が実
施でき、またチャリティライブでも日本各地の
方が ZOOM 参加で一緒に「にじ」を歌うこと
ができました。これからも新しい取り組みに
チャレンジしていきたいと思っております。(大川)



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
(キッズファム財団)

〒157-8535
東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療研究センター内

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください